

りは、人口減少問題に有効な施策。子ども子育て会議で示した学童保育料最高額9千円（階層別最高額）は、変更するべきではないか。

答 利用しない世帯もある中で、総合的なサービスに対する取り組みも重要と考える。

○JR駅前駐輪場有料化問題

〔その他の主な質問〕



学童保育室の様子

「FMラジオ局」 開局の考えは

新井 教弘
(黎明2)

問 近年国内至る所で、甚大な災害が起きており、本市においても、いついかなる災害がおきてもおかしくない状況

の中、市民の方が安心・安全な生活が送れるよう、防災無線で周知をしているが、いまだに「聞こえない・何を言っているかわからない」という声を市民の方から伺う。他に情報の伝達手段として、ケーブルテレビもあるが、視聴地域が限定されている。

防災時において、生の情報が届けられるよう「FMラジオ局」を開局し、放送を開始してはどうか。

答 災害が発生するおそれがある場合や災害発生時において、防災無線を主な伝達手段としている。他に、消防や警察の緊急車両、市のホームページ、ツイッター、フェイスブック、テレ玉データ放送などで周知を図っていることから、現在開局の考えはない。

●バス停に屋根を

問 路線バスのバス停やバス待機場に屋根を設置できないか。

答 バス会社に確認したところ、具体的な要望箇所があればまずは相談してほしいと回答を得た。利用者からの要望があれば働きかけていく。



バス停

がん対策

乳がん検診の
充実について

二本柳妃佐子
(公明党)

問 乳がんは女性が最もかかりやすいがんで、日本人女性の12人に1人と言われる。検診の精度を高めるため、マンモグラフィとの併用により

高い効果をもたらすのが超音波検査（エコー）である。乳がん予防、早期発見のため超音波検査導入の考えはあるか。

答 マンモグラフィと超音波検査を併用した場合、がんの発見において一定の効果があるとの研究結果が得られている。今後、将来的に導入される可能性があるが、導入に

ついては国の動向を注視し、医師会及び医療機関との調整を進めていく。

問 若い世代で乳がんを発症する方が多くなっている。検診対象年齢の引き下げと実施頻度について市の考えは。

答 放射線による健康被害はないとされている超音波検査の導入の可能性を示唆する国の動向を注視して検討する。

問 乳がんは自分で発見できる唯一のがんである。乳がんグロープを活用した自己検診に取り組み考えはないか。

答 正しい自己検診とあわせて効果的なツールの一つとして周知を図っていく。

○児童虐待防止対策

〔その他の主な質問〕

道路整備 (通称) 利田学校道の 安全対策について

柴崎登美夫
(新政策研究会)

問 利田学校道が全線拡幅されると、県道騎西鴻巣線と並行しているため、国道17号熊谷バイパスまでの抜け道となってしまう。大型車の進入を

規制する考えはあるか。

答 大型車進入を抑制する看板を設置するほか、警察署等と連携して安全対策を図る。

問 埼玉小学校側から県道行田蓮田線への出口、山本食品工業前の変則4叉路は現在非常に危険な箇所である上、小中学生の通学路でもある。危険箇所解消のために、一部道路のつけかえなど抜本策が必要だと考えるが、道路管理者である本市の考えは。

答 抜本策としての道路つけかえについては土地所有者の意向を確認し、警察や県道管理者である埼玉県、地元自治会など関係機関と協議し、調査研究に努める。

●埼玉交差点への右折帯設置

問 県道騎西鴻巣線の渋滞緩和のため、埼玉交差点の右折帯の設置時期は。

答 県内でも例を見ない2箇所の交差点とその間を整備する大規模な事業であり、地域住民の不安を1日でも早く解消するために、早期事業の完成を目指し埼玉県と共同で用地買収を進めていく。